

議事要旨

会 議 名	第6回 大村市都市計画マスタープラン等策定検討委員会	作 成 課	都市計画課
日 時 等	令和3年 12月 24日 (金) 14:00～16:00 大村市コミュニティセンター 大会議室		
出 席 者	大村市都市計画マスタープラン等策定検討委員会 委員 (20人中18人出席) 都市整備部都市計画課		
会 次 第	<ul style="list-style-type: none"> ● 議題 <ul style="list-style-type: none"> <立地適正化計画> (1)防災指針について (2)まちづくりのターゲットとストーリーについて (3)施策方針について <都市計画マスタープラン> (1)地域別構想について (2)実現化方策について (3)都市将来像について <ul style="list-style-type: none"> ● その他 <ul style="list-style-type: none"> 今後のスケジュールについて 		
主な内容等	<p>【主な意見等】</p> <p><防災指針について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地区ごとの防災上の課題に対して、どのような対応を行っていくのか繋がりが見えづらいため、例えば、地区ごとに防災上の課題を整理した地図に対して、この地区ではこういった取り組みを重点的に進めていくといった内容を示すことも考えられる。 ● ため池浸水については、事前に水位を下げるといった取り組みは以前から言われているものであり、これをどのように実行していくかということが重要であると思う。絵に描いた餅にならないように、もう少し具体的な対策を盛り込んでいってもよいのではないか。 ● 自主防災組織の結成については、10年以上前から取り組みを続けているが、なかなか増えていない状況がある。これをいつまでどうやって増やして行くのかといった具体的な内容を示すことも重要だと思う。 ● 自主防災組織については、どの地域も高齢化が進んでいて災害時の避難は困難を極めるのではないかとと思われる中で、高校生くらいになれば地域のメンバーとして力を発揮してもらっても必要ではないかと思う。子どものこれからの認知能力の形成にも役立つと考えられ、子ども達も巻き込んで取り組みを進めていければと思う。 ● 災害リスクの高いエリアを居住誘導区域から除外するとしているが、以前の会議の中で居住誘導区域の拡大を検討しているとの説明があった。居住誘導区域の拡大を予定している場所が川のそばだった気がするが、そこは災害リスクの高いエリアではないという認識でよいか。 <p>→沖田町と鬼橋町の河川沿いのエリアについて居住誘導区域の拡大を検討していると説明をさせていただいていた。これらのエリアは浸水想定区域内のエリアとなっているが、現在は住居系の用途地域を指定しており開発も進んでいる状況があることから、防災指針で対策を位置づけながら居住誘導区域に加えることを想定していた。ただ、先般、国と協議を行い、災害リスクのあるエリアに居住を誘導することは望ましくないのご意見をいただき、今回、居住誘導区域の拡大については見送ることとした。なお、地区計画により宅地の地盤を嵩上げするといった縛りかけることも可能であることから、居住誘導区域を拡大する</p>		

<p>主な内容等</p>	<p>際には、そうした地区計画を導入することが考えられるとの助言もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文中に「地域防災計画と連携して」などといった表現を入れ込んでおいた方がよい。「緊急輸送道路を指定し」とあるが、防災指針の中で指定するものではないので、地域防災計画の中で緊急輸送道路として指定されている道路であることが分かる表現にした方がよい。 ● 現在行っている事業や今後見込まれる事業については、リストアップしてどの地区でどの事業を重点的に行うのか星取り表のような形で示すことも考えられる。 <p><施策方針について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 7.2.1⑦については、都市機能誘導区域内の誘導施設がもし休廃止してしまった場合に、残された建物の活用しながら機能を補填していくような方針を記載することが考えられる。 ● 7.2.4②については、交通結節機能を向上させ交流人口の増加を図るとともに公共交通網との連携を強化するとあるが、交通結節機能と公共交通はワンセットのものであり、少し書きぶりが気になる。 ● 7.2.4③については、自転車利用環境を向上させることの目的を追記してはどうか。例えば、健康づくりや低炭素などが言われているのでその辺りを盛り込んでいけるとよい。 ● 7.2.3②については、防災指針と関連づけるとすれば、自主防災組織や地区防災計画などは地域コミュニティと連動してくるものだと思うので、文中の「子育て、防犯、介護など」の部分に「防災」の文言も付け加えることが考えられる。 ● 7.2.1②の医療センター周辺地区については、医療機能だけでなく、南部地域の生活拠点として生活に関する機能誘導は想定されないのか。市中心部とも近い場所なので中心部との連携を行うことなども考えられる。 <p><地域別構想について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域ごとのまちづくり構想図に説明を加えてもらっているが、拠点に関する説明がない地域がいくつかある。他の章で都市拠点・地域拠点・地区拠点に関する説明がなされていればよいが、もし他の章でそうした記載が無いようであれば、地域別構想で整理しておくことも考えられる。 <p><実現化方策について></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存路線の見直しだけでは利便性は大きく向上しないと思うので、IT 技術が進んでいる現代には、新たな技術を活用した公共交通機関の見直しが重要になると思う。 ● P2 では「NPO などのまちづくり団体、地域コミュニティ団体や町内会などのまちづくり組織」とあり、P4 では「NPO をはじめとしたまちづくり団体、地域コミュニティ団体、町内会などのまちづくり団体」となっている。表現の統一を図ってはどうか。 ● 市民との協働とあるが、市民とは具体的にどのような人を想定しているのか。子育て中の方は市民ワークショップなどには参加しづらいと思う。働きざかりの人や子育てしている人などにどんどん入ってきてもらうことが将来のまちづくりには重要であり、そのためには、オンラインでもよいので、そうした人々に参加してもらい忌憚なく意見を出したり知恵を共有したりする場を作っていくことが必要になると思う。 ● P6 の区分について、「地域の拠点となる…」が「市民生活や都市活動を支える…」に変わっており、「拠点」という目線が少し薄くなった気がする。「拠点」という文言は残しておいてもよいかもしれない。 ● 「低未利用地」については、我々の分野では「低利用」「未利用」のどちらの意味も含めて「低未利用」と表現している。また、「低未利用地」以外にも、空き家などに関する話を記載してもよいかもしれない。
---------------------	---